

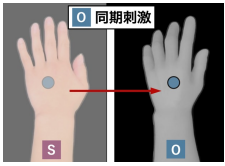
対向配置された左右指に対する同期接触の影響

高橋奈里¹, 佐藤優太郎², 横坂拓巳³, 小鷹理¹
名古屋市立大学大学院¹, 金沢工業大学², NTT³

Background

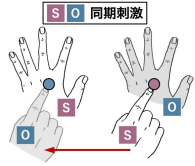
・ラバーハンド錯覚

Botvinick & Cohen (1998)



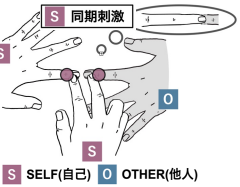
・セルフタッチ錯覚

Ehrsson et al. (2005), Aimola Davies et al. (2013)



・ダブルタッチ錯覚

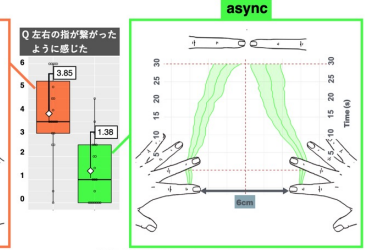
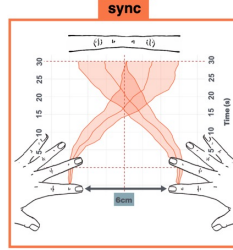
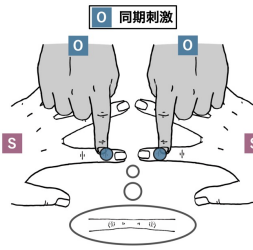
Sato et al. (2024)



Real hand と Fake hand への触覚刺激の主体 (自己 / 他者) の組み合わせは異なるが、両者に同期的に刺激を与えると Fake hand に所有感が生じる点は共通している。

新たに Real/Fake hand の対を、自己の左右の手指に対して適用することを試みた。

・自己溶接錯覚 = Finger-Bonding Effect



→ 同期接触条件において主観指標では接合, 伸長感覚が報告され, 行動指標では各指の先位置が約4cmドリフトした

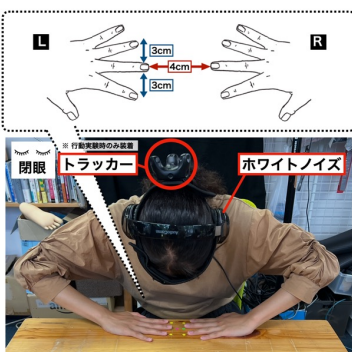
目的 新たなレイアウトとして, 対抗配置された二指に対する同期接触による, 前後方向 (手前-奥) の指の位置変化を主観評価及び行動実験から検討する。

仮説 主観指標では, 二指が一直線に並んだような感覚が生じ, 行動指標では, 互いに引き合う方向にドリフトする。

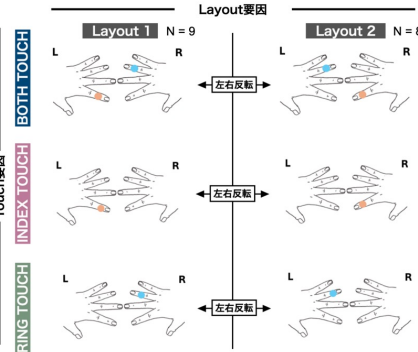


Method

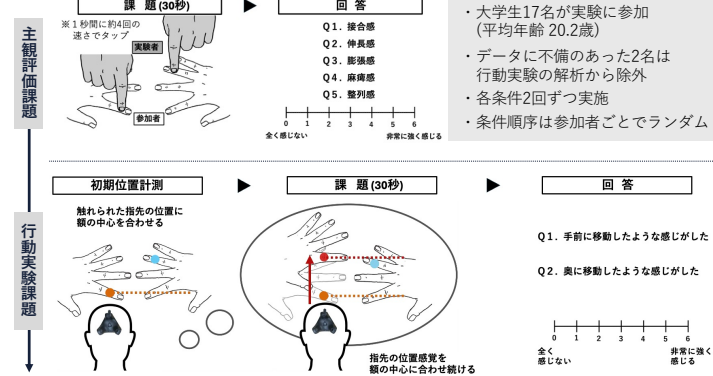
・実験環境



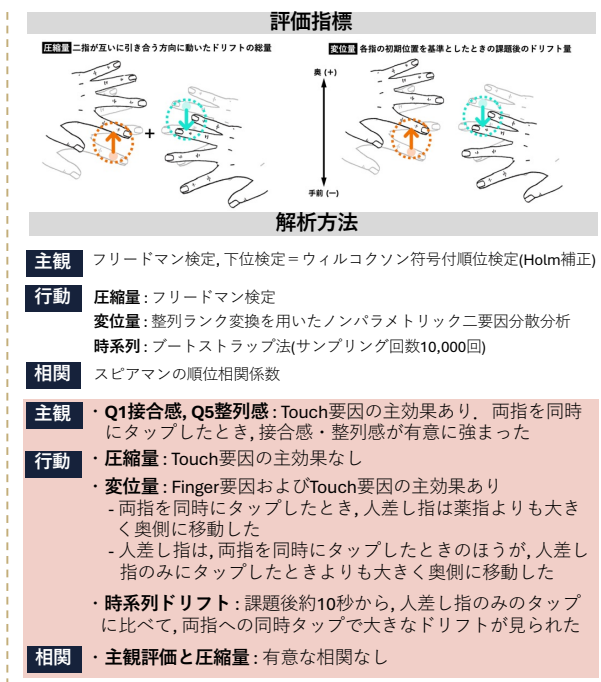
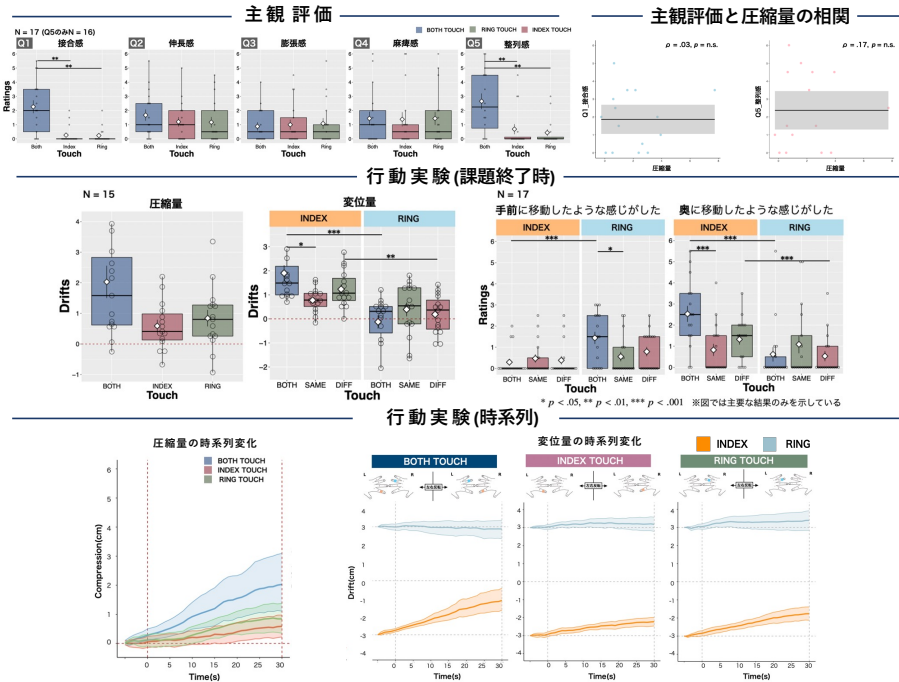
・実験条件



・実験の流れ



Results



Discussion

- 同期接触によって二指が引き合う方向へのドリフトが生じ, その際には人差し指が奥側に移動する = 奥側優位なアラインメントが生起
→ 肘を張った姿勢により, 手を標準姿勢の方向(奥側)へ戻そうとする作用が働いた可能性
- 主観指標と行動指標との間に有意な相関が見られず, 両者は必ずしも一致しない
→ 今後はその要因についても検討が必要

